

# PHSの挫折で 一挙に方針変更か？ インターネットの理想 専用回線接続に挑戦 (でもアナログ……)



## 第3回 専用線設置編



先生も走るが、ライターも走る年末なのだ！

専用線：不特定多数と接続する一般の電話とは違い、特定の2か所の間を専有して利用する回線。

近距離料金値上げ：NTTの専用線料金は96年4月に料金が改定され、デジタル専用線は近距離が値上げ、遠距離は値下げされる。アナログ専用線は近距離は従来通りだが、中・遠距離が値下げされる。

ダイヤルアップ：ダイヤルアップIP接続。インターネットを利用したいときだけ、電話回線とモデムなどを用いて接続する方法。

ftp：file transfer protocolの略。インターネット上でファイルをやりとりするための手段。

設置に時間がかかる：専用線は申し込んでから1～2か月は待たされるらしい。

毎年のことだが、この頃になると、どうも時間の感覚がおかしくなってくる。というのは、この2月号、原稿を書いているのはなんと12月に入ったばかり。業界で言う“年末進行”というやつである。

印刷屋さんも流通もお休みになってしまうから、出版社はなんとか早めに原稿を上げようとする。したがって私のような下請けには「原稿、早く入れてください」と矢のような催促メールが……。

それもこれもお正月のせいだあ～。ああ、子どものころはクリスマスプレゼントとお年玉の楽しい季節だったのに……と、年甲斐もなく嘆いていても始まらない。怒るべき相手はここ数十年、“年末進行”なんぞという言葉で身勝手に合理化している出版界だ。ええい、いったい何のためのDTPだ！ こんなことでは電子ネットワークに負けてしまうぞ！

と、ひとしきりイキまいたところで、さて今月の探検先は、なんと専用線である。そそ、ちまたの料金値下げという動きに逆行して近距離料金値上げの動きがある

ものの、月額固定で使い放題のアレです。

「やっば、インターネットはダイヤルアップじゃあ堪能できませんよ。時間なんか気にしてるようじゃ、本来の使い方じゃないっす。どんなファイルだって、一晩あれば、ぼっといもftpできちゃいますからね」なんつー暴言を吐くLAN系のインターネットユーザーがいるが、私としては「お前が偉いんじゃない！ 専用線のおかげだろ～が」と言いたいのである。

おっと、先月のPHS探検の後味が悪かったのか、なんか今月はミョウにテンションが高い。ま、それはともかく専用線……といっても、公衆回線や携帯電話みたいに簡単には設置できない。

まずは接続する相手が必要だし、最近は何に設置に時間がかかるという。一部では、インターネットブームのせいだ、いやNTTの合理化で専用線部隊が不足してるからだ、じつは阪神大震災で手持ちの交換機が全部神戸に出払ってしまった、というのから、NTTが値上げしたいから工事を遅らせているという噂まで飛び始末……。こんな

ことで鬼の年末進行に間に合うのか？ という心配はもっともだ。

こんな事情を見越してか、編集部では10月のアタマに早々と手を回し、インプレス社内にも受け口を準備してくれていた。なんとという予定調和。偉いぞ副編！ さすが役付は先が読める！ である。が、この段取りの良さがちゃんと快適な専用線接続につながるのか？ 例によって、聞くもナミダ、語るもナミダの専用線探検の始まりである……。

## 突然NTTがやってきた (らしい)

さて、専用線と一言でいっても、下は3.4Kのアナログ線から上は“ンM”のデジタル線まで、いろんな種類があり、値段にも大きくバラツキがある。私としては、お財布の都合からも、当然最廉価な3.4Kアナログ線を選ばざるを得ない。

さらに専用線は距離によっても毎月の使用料が違う。今回の専用線接続では自宅のあるマンションと編集部の入っているビルとを結ぶことになるが、これはなんとか最短距離の中に入りそうだ。よしよし。

さてこの専用回線、3.4Kとは呼ばれるものの、3400bpsでしか使えないというものではない。じつはこれ、「3.4KHz」の略で、決して「3.4Kbps」ではないのだ。回線品質としては一般公衆回線と同等だから、接続先に28.8Kのモデムを付けてもらえば通常のダイヤルアップで使うような感覚で、しかも時間を気にすることなくインターネットが使えるはずだ(と思う)。

というわけで、編集部経由で「NTT専用線サービスお申込書」を手に入れてもらい、3.4Kアナログ線の標準的なパターンで書き込んでもらったのが10月のアタマ。「近いうちにNTTから工事の日程調整の電話がいくと思いますけど、ヨロシク」とのこと、しばらく待ちの態勢に入る。だが、

いつまでたっても連絡がない。こういうときはあせってもしようがないので、しばらく忘れることにしたのであった。

が、ある日、外出から帰ってくると、郵便受けにNTTから「専用線工事完了のお知らせ」が入っているではないか。

な、なな、なんだこれ？ 自慢じゃないがウチのマンションは、室内点検などで他人が部屋に入るには事前に居住者の同意書が必要というセキュアな管理のところである。まさか、勝手に部屋に入ったのじゃないだらな。掃除もしてないし(じつはこっちの方が心配) やばい……と思って部屋に帰ると、なんの変化もない??

そこで編集部に電話して、「工事完了通知は来てただけで、全然入室の気配はないし、電話もそのまんまなんだけど……」と伝える。

「おかしいですね。ちょっと調べてみます」ということでNTTの専用線サービスと連絡をとってもらった。すると、申込書には「端末直前までの工事」と書いてあるのに、マンションの回線集合ボックスのところまで工事して引き揚げてしまったらしい。なんでも、マンション内のどこかにある回線集合ボックスというのはNTTが管理しているそうで、いちいち住人や管理人にお伺いをたてなくても勝手に作業ができるのだそう。おそろべしNTT!

契約書ではちゃんと「端末直前まで」となっていることを確認してもらい、今度はきちんと室内までの工事をやってもらうことになった。あ~、やれやれ。

## 突然NTTがやってきた (しかも外出直前)

さて、今度くらいは事前に電話があるだろうと思っていたら、ある朝、突然NTTの工事担当者から電話がかかってきた。

あ~、はいはい、日程の打ち合わせね…  
…なんて思っていると、「じつは今、マンシ



しまった、部屋を片づけておけばよかった。



回線集合ボックスなるものは、このマンションの中のどこにあるのだろうか？

3.4Kのアナログ線：アナログの専用線のうち、周波数帯域(3.4KHz)を保証するサービスの品目。回線速度を保証するサービスもあるが、現在のところアナログでは9600bpsまでしかない。デジタルの専用線は64Kbps、128Kbpsなど。

距離：正確には隊長宅と編集部との間の距離ではない。専用線の料金を計算するときには、それぞれの所属するNTTの営業所間の距離によって算定される。例えば同じ営業所内で接続する場合には、距離は「0km」ということになる。アナログ3.4Kの場合、料金は0kmで8,400円、10kmまで12,000円(月額)。

NTT専用線サービスお申込書：185ページの写真参照。記入方法などは次号で詳しく説明します。

端末直前までの工事：使用する端末(電話やモデムなど)の手前までをNTTが工事をする、という工事の区分。会社などではさらに手前の交換機の所までしか工事を頼まない場合もある。



工事は突然やってくる。スケジュールと心の準備が必要だ。



結局、公衆回線の電話番号はあきらめなくてはしなかつた。

アナログ公衆回線：ごく普通の電話回線のこと。

ISDN回線：NTTのデジタル公衆回線サービス、INSネット64のこと。ウェブ：WWW (WorldWideWeb) サーバーのこと。「WWW」は発音しにくいのでウェブと略すことが多い。

ホームページ：ウェブサーバーにある画面のことだが、最近では「サーバー」「サイト」「ページ」といった区別はアイマイになってきている。専用線サービスの係：専用線サービスの担当者は、すべてのNTTの営業所にいるのではないらしい。

局預け：電話の加入権は持ったまま、その電話を休止すること。

ヨンの玄関にいるんですが……」である。

おいおい、わたしゃアポがあつてもう出かねなきゃいけないヨ。「事前に電話してもらはずでしょ？」と言うと「いや、それだといつになるか分からないんで、今やりたいんですけど」という突撃モードである。ううむ、ま、仕事をやる気があるのはいいけど、あんたのこの会社には計画ってものがないのか？ と言いたいが、専用線が早く欲しいのは事実。結局「30分もあればなんとかなると思いますから」という言葉に折れて、いちおう挑戦してもらうことにする。

さて、そこでぶつかったのが室内への配線問題だ。

以前にも書いたと思うが、現在私の部屋にはアナログ公衆回線1本とISDN回線1本、合計2本の線が引き込まれている。通常の居住用マンションに予めひかれていた電話用の配線は2本だから、もう目いっぱい状態。したがって、このままだと現在の回線が入っているパイプに、もう1本専用線を通さなければいけない。

工事の人が、見るからに張りの強そうなスチールのワイヤーを持ってきて、壁のコンセントから入れてみるが、どうやら部屋の玄関のあたりでつかえているようで、はるか離れた同じフロア内の回線集合ボックスまでは届かないのである。

そんなことをやってるうちに、アポの時間が迫ってきた。仕方なく工事を中断してもらい、後日再度連絡ということになったのであった。

## ◎ さよならアナログ公衆回線

さて、困った。こうなると選択肢は2つである。むりやりパイプの中に線を通して、専用線を引き込むか、現在使っている公衆回線あるいはISDNのうち1本を専用線に交換してしまうかである。だが、できることなら公衆回線の番号はなくしたくない。

名刺に番号が刷りこんであるからだ。

専用線で常時インターネットを使えるなら、このまま2本の電話線を持つのも合理的だとは思えない。それに、どうもパイプに新たな線を引き込むのは難しそうだ。

考えたすえ、現在の公衆回線を番号を変えずにISDNに変更できれば、現在のISDN回線を解約して、その線を専用線にするのがベストな解決策だとの結論に達した。

そこで思い出したのが、いつか友達に聞いたNTTのウェブの話。自分の電話の局番を入力すると、その電話が同じ番号でISDNに移行できるかをチェックしてくれるらしい。さっそくそのホームページ ([http://www.info.hqs.cae.ntt.jp/dlij/SER\\_J/ISDN\\_J/ISDN\\_J.html](http://www.info.hqs.cae.ntt.jp/dlij/SER_J/ISDN_J/ISDN_J.html)) で確認してみると、をを、オッキーじゃん。よしよし、これで方針決定。後は専用線サービスの係の人に電話して変更をお願いするだけ……のはず。

専用線サービスの担当者に電話して、事情を話したところ、「既存の回線からの切り替えは地元のNTTの問題になるので、そちらの担当者に話して、実際に公衆回線からISDNへの同番移行が可能かどうかを確かめ、その担当から専用線サービスの方に電話するよう伝えて欲しい」とのこと。

う～ん、なんか面倒だぞ。しかも、NTTのウェブでオッキーって言ってるんだから、大丈夫なんじゃないの？

頭にいっぱい「？」をちらつかせながら、とりあえず地元のNTTに電話してみると「確かに同番移行の可能な局番ではあるが、実際に交換機の余裕を見てもないと可能かどうか分からない」という。勝手な論理は物理的可能性に負けるのである。

結局、数日して「現在の公衆回線の電話番号では同番移行は無理」という電話が地元局の担当者から入った(ウェブの嘘つきい！)

またもや裏切られてしまった私は、しょうがないので公衆回線を局預けにし、代り

のスペースに専用線を引くように依頼したのであった。

## ☉ 一番単純なのでいいです

それから10日ほどが過ぎ、もういっ加減にしないとこの騒ぎも飽きちゃうよね、と思い始めたころ、今度はちゃんと工事日程の電話連絡が入り、その2日後には工事の人がやってきた。

とは言っても、作業はマンションの回線集合ボックスの中の切り替えだけらしく、室内では何をやるわけでもない。ただ、小さなハコで信号をチェックしただけ。20分ほどで専用線と公衆回線の入れ替えが終わってしまった。

さて、これで専用線の設置工事そのものは終わりである。だが、「やった～、ついにこれで私も専用線でインターネットにアクセスできる～」というよりも、なんだか電話が1本なくなったという実感しかない。

これまで公衆回線で使っていたモデムやFAXを外して、TAの裏にあるアナログ回線ポートに接続したり……結構大変。それより、電話番号が変わってしまった方が問題だ。いちおう前の番号に電話すると新しい番号を案内してもらうように頼んではおいたが、念のため、知り合いに番号変更のメールを書いて送ったりする。

一段落した後に、インプレス側のシステム管理者に連絡を入れてみると、「忙しくて時間がないので、少し待っていただけますか」……。そういえば、暇なシステム管理者というのには会ったことがないことを思い出し、納得モードに入る私である。

これでまた数日が過ぎ、どんどん“年末進行”で前倒しの締切が近づいてくる。編集部顔を出すたびに「専用線の方、どうなってます？」という質問の口調にあせりの色が……。

やがて編集部からシステム管理者の方にプッシュしてもらったおかげもあって、なん

とか相談の時間をもらえることになり、接続のやり方についての打ち合わせに出かける。と、雪駄モードのI氏（どうしてシステム管理者はこうサンダル系が多いのか？）は開口一番、「で、どういう接続にするんですか？」

「え、どういう接続ってそのお……」とついつい言いよどんでしまう私（そのじつ、「だからあ、締切もあるしい、なんでもいからつないで！」のココロ）である。

話を聞いてみると、専用線を使ったインターネット接続にはいろんなやり方があるらしい。そういえば、スモールオフィスなんかではやっぱりルーターを使ってDNSを用意して、IPアドレスをもらって……みたいなことをするんだよね。が、現在の私の狭い部屋では、とてもネットワークしようなどという気にはならない。

そこで今回は一番単純なパターン、つまり公衆回線経由でインプレスのモデムにダイヤルアップするのと同様のやり方をとることにして、インプレス側と私の自宅側がペアで使うモデムを揃えてもらうことにする。やっぱりモデムにも相性というものがあるって、同じメーカーの同じメークでないと、コネクションに不都合が出てしまったりするらしい。

## ☉ 探検隊長、遭難寸前？

こうして締切が着実に近づくなか、ようやくモデムも揃い、いよいよ待ちに待った専用線接続実験の日となった。

インプレスからモデムをもらって帰り、まずは壁の専用線コンセントから机の上のモデムまで、以前使っていた約10メートルのコードを天井づたいにひっぱって接続する。

続いて、I氏からメールで送ってもらったモデムの設定に必要な専用線モードのパラメータを、パソコン通信用の無手順端末ソフト経由でモデムに記憶させる。さらにMacTCPとMacPPPの設定も変更して



果報は寝て待て。工事は忘れたころにやって来るのだ。



モデムも獲得したことだし、いざ専用線接続実験開始だ！

TAの裏にあるアナログ回線ポート：ISDN回線に従来の電話やFAXをつなぐには、変換するためのアダプター（TA）が必要となる。

専用線を使ったインターネット接続：今回のように1台のマシンだけを接続する場合から、独自のドメイン名を取得して自分のLAN（ネットワーク）を接続する場合まで、規模に応じてさまざまな形態がある。

ルーター：ネットワーク同士を接続する際に必要となる中継機器。

DNS：Domain Name Serverの略。自分のネットワークを外部にたぐく際には、このサーバーが必要となる。

IPアドレス：インターネットにつながっているマシンにそれぞれ割り当てられる、固有の番号のこと。

専用線モードのパラメータ：モデムを専用線で用いる場合には、普通の電話回線を使う場合とは異なる設定が必要になる。



インプレス救援隊長を早く連れて来ねば。



どうか来年は専用線がつながりますように。

文字化け：ノイズなどによって起こるエラーをモデムが訂正する機能が働かないと、あやしい漢字で画面が埋めつくされてしまったりする。

(もちろんスピードはニイパッパだ) いざ ConfigPPPの「Open」ボタンをクリックして接続開始……。

だが、なぜかうまくいかない。なんどやってもおなじみの「Connect 28800」までたどりつかないのだ。

しかたないので、インプレスに電話し、I氏に指示をあおぐと「とりあえず無手順でコネクションができるかどうか、モデムのパラメータをさわって試してみましょう」ということになった。

専用線で無手順の接続を試みながら、電話でI氏と端末画面の様子を報告し合うという、なんか異常な状態に突入だ。

しかし、手元にあるパソコン通信のターミナルソフトでは、どうもうまくない。コネクトできなかつたり、接続できて大量の文字化けが発生したりしてしまうのだ。

### ⑨ 専用線救援隊出動！

電話の向こうにスタンバってくれているI氏も、これでは駄目だと思ったのか、「しょうがない。そっちまで出張ですね」ということになった。

インプレスまで愛車をとばしてI氏をピックアップし、そのまま自宅までご案内だ。

床にころがった書類や雑誌をかき分けかき分け(すいません、散らかってて)とりあえず壁のコンセントから机の上のモデムまでの線を見せもらう。

「いちおう線はちゃんとつながってますね」とI氏。

「なんかこのコンセントからモデムまでの長い線がまずいのかな？」

「いや、それくらい問題ないと思うんだけど……。だって、以前にはこの線で288が使えてたわけですよ？」

そう言われてみればそうである。ということは、やっぱりモデムの設定か？いや、当て推量はやめて、ここは専門家に任せよう。

Macintoshの前に座った彼、胸のポケットからフロッピーを取り出し、端末ソフトをインストール。続いて、モデムポートとプリンターポートに、これまで使っていたモデムと今回持ってきた専用線用のモデムを振り分け、端末ソフトのウィンドウを2つ開いてそれぞれに割り当てる。

なんと、1つのウィンドウではダイアルアップでインプレスのサーバーに入り、インプレス側のモデムをリモートコントロールする。もう一方のウィンドウには専用線モデムをつなぐ。1台のマシンで回線の行きと帰りをチェックするのである。う～ん、なんかプロっぽいぞ！

その間、こちらはボカんと見てるだけ。いろいろやってもらってるようだが、苦勞のかいなくこれも駄目なようだ。

「う～ん」とうなったI氏、今度は持ってきたバッグの中からラップトップを取り出して、ダイアルアップ経由で社内のモデムをコントロールする第2ステージに突入だ(こんな調子で観客していいの？)。

いろいろ試しているうちに、コネクト・スピードも28,800bpsからどんどん落ちて、結局9,600bpsにまで下がってしまった。ここまで下ればなんとか接続できるが、こんなもんじゃ使いものにならないぞ。

### ⑩ 年を越える夢の専用線接続

どうやら煮詰まってしまったようなので、I氏に説明をせよ。

はっきり言って理解できなかったが、かいつまんで言えば、問題があるとすれば「Macintoshとモデムの間」「モデムからコンセントまでの線」「専用線そのものの品質」「インプレス社内の回線集合ボックスからモデムまで」のどこかということになるらしい。

結局、今回は原因が特定できないままで、後日再度挑戦ということになってしまったのであった。

もう時間は終電間近。インプレスにとつて返った我々は、マの悪いことに会社の前に愛車を止めようとしてエンストしてしまい、何の呪いか、突然バッテリーが上がってしまうというオマケまで付く始末。

仕方なく編集部まで行って、たまたまいた隊員を呼び出し、クルマの押し掛け肉体労働をやらせてしまった（今回の出演はこれだけだ、すまぬ>隊員）。しかし年の暮れにこれじゃ～ね～、トホホ～。

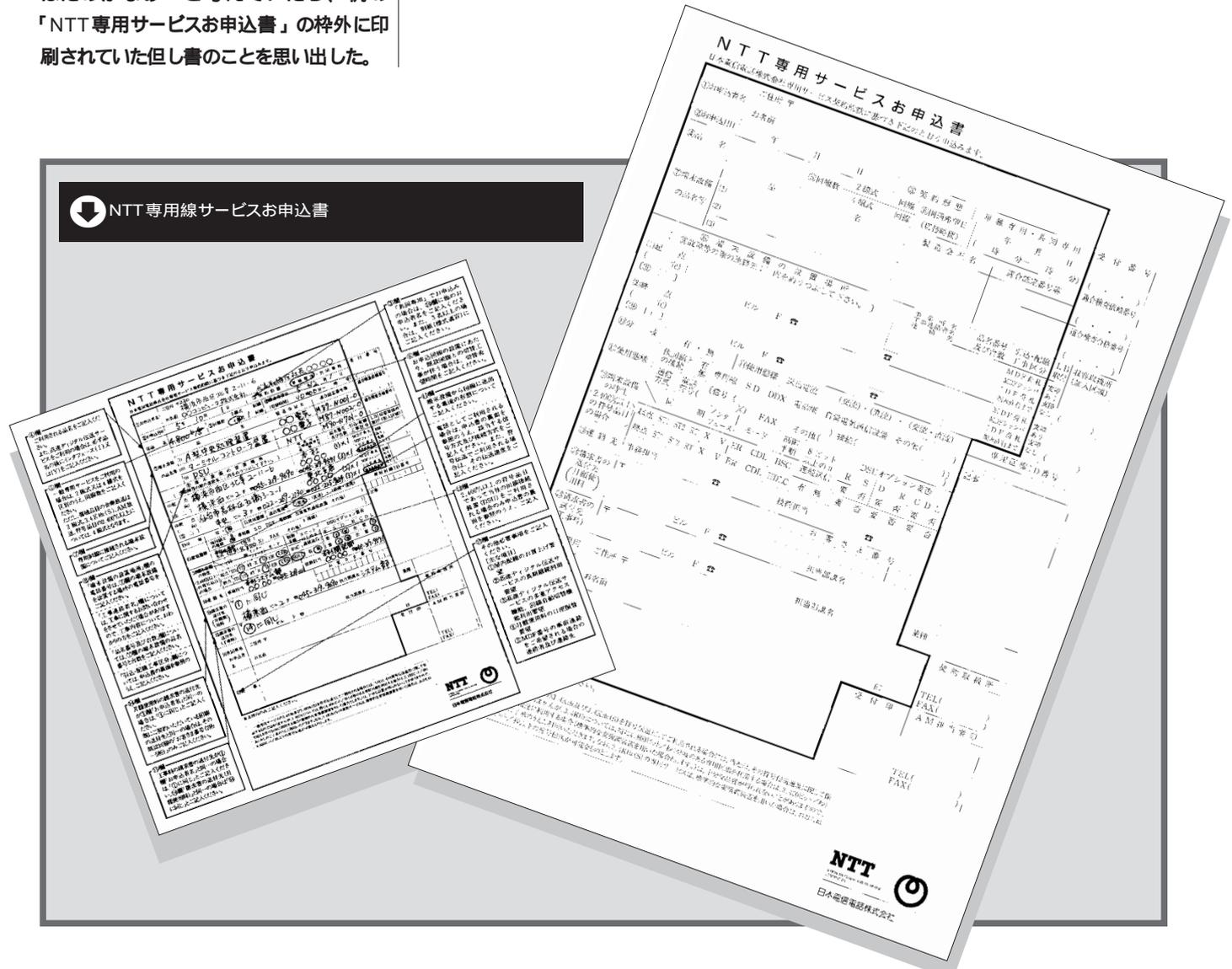
会社からの帰り道、エンストしないように愛車を運転しながら、やっぱりアナログはだめかなあ～と考えていたら、例の「NTT専用サービスお申込書」の枠外に印刷されていた但し書のことを思い出した。

それに曰く「一般専用サービスの3.4KHzおよび3.4KHz(S)を符号伝送としてご利用される場合には、当社は、その符号伝送速度に関して保証するものではありません(以下略)」……ううむ、これってエクスキューズなわけ？ それともマジ？

アタマの中が再び「？」だらけになった私ではあるが、NTTがデジタル回線拡販のためにアナログ線のクオリティに気を使わなくなった、なんてことがないように祈りながら、来年こそはインターネット専用線を開通させようと誓うのであった。

符号伝送：デジタルデータを送ること。今回申し込んだ3.4KHzのアナログ専用線は、本来は音声を送るためのサービスである。

NTT専用線サービスお申込書





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)